

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271600607		
法人名	株式会社三幸		
事業所名	グループホームさくらんぼ(さくらユニット)		
所在地	島根県出雲市斐川町今有家403-1		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 応援団		
所在地	島根県浜田市相生町39848-2 相生塚田ビル1階103号		
訪問調査日	平成24年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来継続してきた、施設で採れた野菜を中心にしたメニュー三食の食事作り～食後の後片付けまでを利用者と共に現在まで継続してきています。また今年度は利用者一名のターミナルケアをさせて頂きました。開所し7年目を向かえ、ご利用者の入居期間が長期化され、できるだけこのままでと希望して下さるご家族の希望も多く、できるだけその思いに応えていけるよう職員会議などを通し模索しているところです。これまで理念でもある「和」を大切にご利用者のケア、職員間の連携、ご家族との関係など図ってきましたが、今後も変わらず大切に、それぞれの「和」を大切にしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の中にある「和」を大切に考え、利用者同士の「和」、利用者職員との「和」、職員同士の「和」、利用者家族との「和」、家族職員との「和」とそれぞれのつながりを大切にしながら利用者との生活を送っている。職員同士の連携もよく取れており、お互いに声掛けをしながらケアにあたっていた。利用者の笑顔も見られ、落ち着いた安心した生活が伺える。事業所の敷地内にある畑では大根やたまねぎ、じゃがいもの他にもたくさんの野菜を育て、利用者と一緒に農作業をすることで自分の役割を見つけ、安定した生活に結びついたり、畑に出て働くことで体力維持にもつながっている。季節ごとに手書きで温かみのある「さくらんぼ便り」を作成している。事業所での生活や運営推進会議の様子を発信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の見やすいところに掲示し、また毎回の会議時にも声に出し唱和をし、意識を高めるようにしている。	理念には5つのあいことばを掲げ、方針を合わせたケアができるよう全職員で理解と共有のもと日々実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物や散歩で近隣の方と触れ合っている。町内のふれあい祭りへの参加、毎年の氏神神社お祭への参拝、前のあかつきファームからのぶどう狩りの招待を受けるなどの交流がある	大正琴の演奏や読み聞かせのボランティアの来所のほかに地域の行事に参加したり、地域へ出かけていく機会を多く持ち、地域との付き合いを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は年2回の地域への広報を発行してきたこともあったが現在はそれが中断している。ほかに現在これといった活動はしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の民生委員、駐在所の方などにも来ていただき、意見をいただいたことを実践に反映させるよう努めてきた	定期的な開催が定着している。「さくらんぼ便り」に運営推進会議の内容を記載し、家族へ会議の様子も知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主には運営推進会議を通し意見をいただきそれを反映させてきた。事故、苦情等大きな問題はなく蜜にというところまでの連絡事項などはなかった。	市町村合併により、担当が変わり新しい関係が始まったばかりである。運営推進会議に出席してもらい事業所の様子を知ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を日中は開放してきた。また居室の窓も日中は施錠していない。すべての職員が身体拘束については理解し、しない方向でケアに取り組んでいるといえる	職員は身体拘束をしないケアを実践している。外出願望の強い利用者も数人いるが、利用者の思いに添ったケアをすることで安心して生活できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、身体チェックも必ず行っており虐待についても見過ごさないようケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現実に成年後見制度を利用されている方が2名いらっしゃり、皆が実践を通し、また予め作成してある、制度についてのファイルを常時、自由に見れるようにしてきた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に左記については充分説明し、行ってきた。そのことについてのトラブル等は過去なかった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会の場、または通常においても面会時には近況報告する機会にご家族の意見を聴くようにしてきた。また玄関には意見箱も設置しており、できる限り意見が表出されるようにしてきた。	訪問時や敬老会などの来所時の交流を通じて家族の提案や要望が聞けるよう交流を大切にしている。毎月個別の情報知らせる手紙を郵送している。	利用者と家族と一緒に交流する機会を多く持つことで多様な意見の収集に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主には管理者が会議や、また個々に意見を言えるように配慮し、それに対する回答、また実践もしてきた	毎月のユニット会議や職員会議・カンファレンスなど利用者への支援について活発な意見が提案されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を通し皆の意見を聴くようにし、各項目において整備に努めてきたといえる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通し把握してきたといえる。研修については、案内はすべて職員に周知してもらい、その中で参加希望があれば率先して参加してもらってきた。また職員会議の場などで研修参加についても働きかけてきた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年より出雲地区GH協会への入会をし同業者との勉強会などネットワークが広がっている。相互訪問は毎年おこなっており、今年度も当初計画していたが、人的にゆとりがなくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者には事前に管理者が来訪、面談し要望や困っていることなどについてお聴きしている。また入所後は特にマンツーマンにて関わりを持つようにし、ご本人のニーズを引き出せるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望者には事前に管理者が来訪、面談し、家族の要望や困っていることなどについてお聴きしている。また入所後当分は特にご家族への状況報告や要望等について面会や電話などにおいて話し合うように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの聞きとり、本人の状況を拝見させていただきアセスメントを行い入所に至る事になった一番の障害に着目しプランを作成し、それに向けチームケアに取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作り、片付け、買い物、洗濯物干し、たたみをご利用者の日課とされ、職員と共に行っている。また昼食は同じ物を一緒に食していること。それらを通し、利用者と一緒に生活しているという感覚がある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の話をお聴きしたり、時には息子さん、娘さんの写真を一緒に見たりし昔の話を語っていただいたりしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居住期間が長くなるにつれ面会の頻度が全体的に減ってきている。中には馴染みの人を忘れていらっしゃる。ご家族の協力が無いと馴染みの場所への支援は困難である。	利用者の馴染みの関係を理解し支援している。畑仕事やピアノ・編み物・大正琴など入所前にしてきたことが入所後も継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士時にはぶつかり合うが職員が間に入ったりコミュニケーションのとりにくい方にはマンツーマンでの支援にできる限り努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先へは当分の間訪問し関係性の継続や経過の把握に努めてきた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向を取り入れケアプランを作成している。それをカンファレンスにて情報の共有を図っている。また日々の生活において食べたい物、行きたいところ、困っていることなどをできるだけ聞き取るようにし、その意思に沿えるようケアにつなげている	言葉や表情・自己決定を尊重して希望や意向を把握するよう努めている。情報を職員の間で共有し支援している。	本人が納得し、安心した生活が送れるよう職員で把握しケアにつながる取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左記について入所前の情報はできる限り収集し個人のケースファイルに収めいつでも職員は見れるようにしている。また入所されてから得た情報もそれらに記入し、周知できる様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人何を得意とされ、また気が向かれ継続していただけるのか、日々の生活の中の家事等において本人の日課につながることを見つけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行う前には他の職員からも気づいたことを聞き取り、またご家族からの意見も取り入れた計画を作成している	介護計画には炊事・洗濯・嗜好など12の項目ごとに目標と援助目標を策定している。職員間でのモニタリングが介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記の通り行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場そのときの状況に応じサービス内容は考え実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	苑近くの神社への散歩方々参拝を日常的に行ってきた。また施設前の公園や町内の公園にて青空弁当を皆で食べたりしている。見頃になるとなるといろいろな花を見にも出かけてきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向でかかりつけ医を決定されている。現在内科は当苑の協力医をかかりつけ医とされている方が全員で、24時間対応にて診ていただいている。心療内科は希望で苑の協力医やその他の医療機関にかかっている方もいらっしゃる	利用者全員が協力病院をかかりつけ医に希望されている。毎月の往診時には薬剤師も立会い、安心した医療連携がとられている。往診の様子は電話や手紙で家族への報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきなど職場内の看護師は相談しアドバイスを受けたりかかりつけ医の看護師より指導してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には入院先の医療機関や病棟看護師、ご家族などから都度状態をお聴きしたり、本人への訪問も行うなどし、できる限り早期に苑に復苑していただけるように支援してきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の介護の意向などについてお聴きしながら説明してきた。入所期間が長期化してきているご利用者が増え終末期までできる限り当苑での在所を希望される方が増え、極力その意向に答えられるよう日々会議などで話し合っている。	かかりつけ医や看護師の協力もあり、本人の思いに寄り添い一名のターミナルケアを実施した。ターミナルケアについては職員間でも話し合いを何度も行ってきた。大きな病気が見つかる又は寝たきりとなったときには家族と今後について話し合う場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回消防署から救急隊員に来ていただき救急法を学んでいる。実際の現場において実際に生かされたケースもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年2回訓練をしてきている。その他の災害については訓練不足である。地域との協力体制は築かれていない。職員休憩室に町内のハザードマップを常時掲示しており、常日頃から把握には努めている	消防署の指導のもと避難訓練を定期的に実施し、夜間を想定しての訓練も行っている。通報装置は特定の人ではなく、多数の職員が使用できるよう訓練している。	地元の消防団との協力や火災以外の災害対策についての検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	左記について意識しケアを行っている。特に排泄介助の際の声掛けには周囲の方々に聞こえることがない様配慮しながら声をかけている	本人の気持ちを大切に必ず声掛けし、さりげないケアの実践に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク、外出、食事、お茶菓子など日常のささいな事柄だができる限り意思を表出していたり自己決定していただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分によりに日々皆さん違うので、その日その日の利用者の状況を見ながら本人のペースや希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるかぎりだが、リビングでくしを差し出し髪をくしで梳かしていただいたり、シェーバーと鏡を提供しご自分でひげを剃っていただいたりしている。またできる方はご自分で洋服を選ばれ着ていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから片付けまで日々日課とされている方々と一緒に行っている。	畑で採れた野菜を使用し、利用者の食べたいものを聞いてメニューを考えている。利用者個々の状態に合わせ、きざみ食やおかゆ・おじやなど対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	習慣病や体重などを考慮し主食量を本人の不満にならないよう量で決定し配膳している。水分量や摂取量についても少ない方については継続しチェックするなど把握に努め不足しないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者様に応じたケアにて洗浄は行っている。また加えて週に2回ポリデンT洗浄もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のADLや習慣、思いなどを考慮し、尿器、ポータブル、定期的にトイレへの声かけなど、個々に応じた支援を行っている	排泄パターンをつかんで排泄の自立に向けての取組が効果を生んでいる。夜間トイレへの移動に時間がかかる方にはポータブルを用意してもらい、おむつにたよらずトイレで排泄することを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、腹部へのホットパック、水分内容の工夫などその時々で考え、常に便秘に対しては予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	以前は夕食後などご自分の希望される時間帯がある方がいらっしゃったが現在は該当者なく、その日の体調、血圧など考慮し本人に了解の上入っていただいている。	希望があればいつでも入浴できる体制にあり、好みのシャンプーや石鹸で入浴を楽しんでもらっている。入浴の他に足湯も常時行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のADLや習慣、思いなどを考慮し、尿器、ポータブル、定期的にトイレへの声かけなど、個々に応じた支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がご利用者ごとにケースファイルに綴じてあり職員はいつでも自由に見れるようにしてある。服薬支援する際もチェック表にて用量などを確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意分野や気の向くことを生かし、畑作業、編み物、料理、外出などケアに生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	冬季を除いて毎日のように戸外へ散歩してきた。帰宅願望の強い方は盆、正月に家族の協力にて外出、外泊されている。	気候がいい時には近くの公園へお弁当を持って出かけたり、近場のドライブや外食の支援も行っている。温かい時期には毎日のように近所を散歩し、利用者の日課になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる限り本人に支払いを勧めているがほとんどの方が職員に頼まれることが多く直接のやりとりをされていることはほとんどない。通常事務所にて保管しているが、一名の方については本人が少額だが所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があればとりつないで差し上げている。手紙のやり取りはこれまでなかった		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングと季節の植物や花が飾られている。どこの場所においても異臭がないよう配慮している。室温にも気を配っている	リビングの掃除は利用者の日課となっており、生活をする場を利用者と職員が一緒に作り上げている。共用空間には美容室も準備され、美容師の資格を持つ職員が散髪やカラーを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に主に3箇所のリビングがあるのでそのときの気分で思い思いの場所で過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族が考えられ好みのものや慣れ親しんだものを置かれる。生活していた中でこうしたほうがよいと思われる時には本人、ご家族と相談の上で決定している。	こたつ・ベット・たんすなど必要最低限の家具類を持ち込まれ個性的で自由に過ごせる居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーであり、随所に手摺もある。ユニット内はシンプルな間取りであり、迷われることなく自立されているといえる		